

近江の石仏

街の辻や田圃のあぜ道などにひっそり立っている石の仏、地蔵盆の主演である石の地蔵、また養の神、道祖神として、石仏は私達の生活の中に、いまでも生きつづけています。

石仏は、早い時代に大陸の文化とともにわが国に伝えられてきましたが、全国に根をおろして花を咲かせ始めたのは平安時代になってからでしょう。石仏は、一かかえ程の小さいものから、自然の山に突っ立っている岩や崖に刻まれているものまでありますが、岩石や崖に彫られた石仏を特に磨崖仏（かきぶつ）といいなわしています。磨崖仏は、霊地に坐す仏が岩に姿を現わし給うといったように、造るというより生み出すという心構えを感じさせられます。

石仏の彫り方には、仏像の全身を彫る丸彫（まるぼり）と、背面は自然石のままか光背（くわうはい）や駒形（こまがた）につくり、表面に像を浮彫（うきぼり）にするものと線だけで像を表わす線彫（せんぼり）とがあり、浮彫は厚さによって厚肉彫（あつにくぼり）、半肉彫（はんにくぼり）、薄肉彫（うすにくぼり）などといいます。

狛坂磨崖仏

国の史跡に指定されている狛坂磨崖仏は、完全に近い姿で残っているものとしては、日本で一番古い磨崖仏といってよいでしょう。栗東町荒張地先の金勝山内に在りますが、大津市上田上桐生町から入るのが便利です。狛坂寺は弘仁年間（810～823）に僧願安が開いた寺で、磨崖仏はその廃寺跡に残っているのです。



狛坂磨崖仏

これは、灌木と岩ばかりの山の谷間・茂みのある平地の一角に屹立している巨大な岩石面に、見事な仏達が浮彫にされています。中央に大きく三尊、その上部に2組の三尊仏と3体の菩薩立像が半肉彫にされています。主尊である中央の如来は袈裟座（かさざ）に坐り、脇侍の菩薩は蓮華座（れんげざ）に立ち、下部の基壇は3区に分け奈良時代に見られる持送り（もちおくり）式格狭間（しやくきょうま）が造られています。全体におおらかで、平安初期の作と推定されていますが、奈良時代を偲（しの）ばせる風格があります。向って左の小岩にも三尊仏が彫られていますが、これは少し後に造られたものでしょう。

金勝山にはこの外に園見岩（のぞみいわ）近くに茶わかし観音（ちわかしくわんおん）、桐生側に近い谷間に逆（さか）さ観音（さかさくわんおん）（実は三尊像）、大津市大鳥居に近い谷間に小屋谷石仏（こやにやいしぶつ）が残っています。いずれも巨岩に彫られたものですが、後の二つは山から滑り落ちた形で、仏像を彫った表面を上にして谷間に

置かれています。また、観音寺地区からの金勝山参道に添っている走井の谷にも、元治2年（1865）の新しい釈迦・薬師・弥陀三尊を浮彫とした小磨崖仏があるなど、石仏の山・金勝の伝統がずっと生きつづけていたことがわかります。

観音正寺石窟

安土町・五個荘町・能登川町にまたがる^{あかぎ}織山の観音寺城跡調査の時に、観音正寺奥の院に石仏が発見されました。奥の院の建物の左を身を細めて入ると、奥は数人が身をかがめていられる程の^{せきくつ}石窟となっています。左方の壁面に入口から奥にかけて7体程の仏像が薄肉彫されていますが、入口の2体は肉眼ではほとんど見られません。比較的よく残っている奥の5体は、入口近くのものが菩薩立像、次の2体は如来坐像、次に菩薩立像、一番奥に菩薩坐像とならんでいます。石が比較的軟かいものであるためか随分損傷しています。特に気が付くのは、向って右の如来の下部に^{ほうびん}宝瓶に二茎蓮を大きく飾っていることで、後世近江に流行する蓮の飾りの前身がここに彫られていることです。いま一つは、一番奥の菩薩坐像の光背にあたる所が直線模様となっていることで、これが北斗七星を表わすとすれば興味あることだと思われます。おそらく平安時代末頃の県内では狛坂磨崖仏に次ぐ石仏と考えられます。^{あかぎ}織山の南方^{うつの}内野の岩戸山には十三仏石仏があり、五個荘町、八日市市



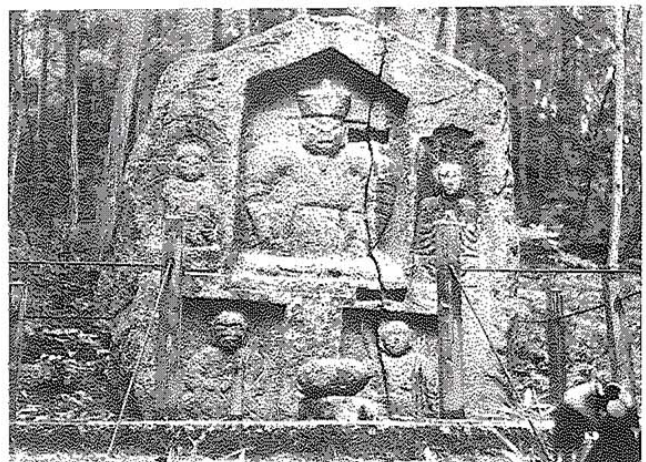
観音正寺石窟の磨崖仏

^{のべ}辺町あたりにも沢山石仏を見ることができるとも、何か深いかかわりがあるのかも知れません。

石仏の道

金勝山を大菩提寺というのに対して、甲西町大字菩提寺には^{しうぼだい}少菩提寺跡があり、有名な石造多宝塔と石仏を含めて国の史跡に指定されています。廃寺跡の奥・右手の樹林の中には、県内では珍しい^{えんま}閻魔石仏が立っています。頭部を山形にした全体駒形の石面に、中央に^{どうふく}道服をつけた閻魔大王坐像が駒形にくぼめた中に厚肉彫されています。あたりを^い威嚇するような迫力のある像で、室町時代の作と思われます。向って右手に弥陀、左手に地藏を配し、下部に^{そうざい}僧形と地藏が彫られていますが、石の右3分の1ほどが割れていたのを、江戸時代につなぎ合わせて補修されているようです。

また、ここより下手に3体の地藏尊があり、菩提禅寺には永正16年（1519）銘の地藏尊、阿弥陀院にも地藏尊があります。菩提寺地区から正福寺に出ると鎌倉末期の阿弥陀坐像が、花園には巨大な岩に不動磨崖仏が見られ、岩根に入ると善水寺に弥陀小磨崖仏等3体の石仏があり、不動寺には建武元年（1334）銘の不動磨崖仏を見ることができます。岩根から野洲川対岸の三雲に入ると、妙感寺に鎌倉時代の立派な地藏磨崖仏が谷間に潜んでいるのが見られます。これらは大部分が町指定の文



少菩提寺跡の閻魔石仏



妙感寺石仏



善光堂石仏



鵜川四十八躰仏

化財になっています。

善光堂石仏

東海道線上り電車が米原駅を出ると、すぐ左手の丘の中腹に堂が見えます。これが善光堂です。近江町岩脇に属していますが、近江輿地志略に「竜尾山半腹にあり。三尊の弥陀を一大石に彫刻す、岩窟の中にあり……」と書かれているように、早くから知られていた石仏です。山肌に現われた岩石のくぼみの中に安山岩を舟形に作り、表面に弥陀三尊を半肉彫にした石仏で、石の高さは80cm強ですから「一大石」ではありませんが、細工はなかなか緻密です。中尊の印相（仏像の手・指で示している形）にも左手の無名指と小指を曲げたいわゆる善光寺式印を表現し、両脇侍は手を重ねた印を結び、観音菩薩の宝冠には小像を、勢至菩薩には宝瓶を刻むなど細部にまで心を配ったもので、近江には珍しい善光寺仏であることに注意したいものです。製作年代は鎌倉時代でも終りの方ではないかと思われれます。なお、脇に置かれた小石仏も室町時代の千手観音立像で近江には数少ない像の一つです。

湖西の石仏

湖西の石仏を大別しますと、丸彫と舟形光背・厚肉彫の石仏の二つに分けられます。丸彫石仏では高島町鵜川の鵜川石仏が有名です。

鵜川四十八躰仏として県の史跡に指定されていますが、高さ 150cm余りの35体の阿弥陀坐像が、1列5体で7列にずらりと行儀よく並んでいる光景は壮観です。伝えには天文22年（1553）佐々木六角義賢が亡母供養のため造像したといわれ、室町時代末の近江の石仏を代表するものです。残り13体は大阪市坂本の慈眼堂裏に保存されています。

安曇川町三田の玉泉寺には鵜川系石仏が5体と、ほかに中・小の石仏があり、裏の墓地には六地藏・六観音が所狭しと生きづいているような姿で立っているのは素晴らしい風景です。このほか安曇川町の上手、中野、五番町等に丸彫の石仏が見られ、また、高島町では鴨地区を中心として、鎌倉末から室町時代にかけての舟形光背石仏が多く見られますが、地方地藏信仰の厚かったことが偲ばれます。

むすび

桃山時代以前の近江の石仏は現在 139件を数えます。磨崖仏は、笠置から信楽の山続きに金勝・田上・岩根から野洲の線が考えられ、丸彫石仏は二・三をのぞけば湖西に多く、舟形光背の石仏は県内全般にわたっています。近世になると、庶民個人が近親・知友の供養のために小石仏を造り、不動・地藏等民間信仰の流行と共に数限りない造像が進められました。（宇野健一氏提供）

近江の石仏一覽(抄)

本文記載のものを除く

番号	品目	時代	所在地	備考
1	聖衆来迎寺石仏	鎌倉	大津市阪本比叡辻町	三尊仏
2	西教寺二十五菩薩石仏	桃山 天正12 (1584)	〃 坂本本町	
3	西教寺六地藏石仏	室町 天文19 (1550)	〃 〃	
4	石造弥勒仏坐像	鎌倉初期	〃 〃 (比叡山 西塔)	平安末期説あり 市指定
5	大正寺石仏	室町 永正9 (1512)	〃 坂本本町	
6	宝光寺石仏	桃山 天正13 (1585)	〃 〃 穴太	
7	山上不動磨崖仏	鎌倉 仁治3 (1242)	〃 錦織一丁目	
8	藤尾磨崖仏	鎌倉 延応2 (1240)	〃 藤尾奥町	
9	白洲不動石仏	室町 応永22 (1415)	〃 外畑町白洲	
10	阿弥陀三尊不動明王磨崖仏	南北朝 応安2 (1369)	〃 大石富川町	銘は古記録 市指定史跡
11	西芳寺石仏	室町 永正7 (1510)	〃 田上里町	
12	服部石仏	室町 天文8 (1539)	彦根市服部町	
13	大光寺石仏	室町 文正2 (1467)	近江八幡市土田町	
14	石造薬師如来	鎌倉	長浜市八幡車町	市指定
15	〃	〃	草津市山田町	
16	大蓮寺三尊石仏	鎌倉 元亨元 (1321)	八日市市市辺町	
17	薬師堂三尊石仏	南北朝 貞和2 (1346)	〃	
18	石造阿弥陀如来坐像	鎌倉	守山市岡町	市指定
19	蜂屋弥陀石仏	鎌倉 仁治2 (1241)	栗東町蜂屋	町指定
20	石造不動明王	南北朝	〃 荒張	〃
21	行畑弥陀石仏	鎌倉	野洲町行畑	〃
22	妙光寺地藏磨崖仏	鎌倉 元亨4 (1324)	〃 小篠原	〃
23	石造不動明王尊	鎌倉	甲西町針	〃
24	息障寺弥陀磨崖仏	南北朝 至徳2 (1385)	甲南町杉谷	
25	小川石仏	室町 天文24 (1555)	信楽町小川	
26	仙禅寺磨崖仏	鎌倉 建長元 (1249)	〃 上朝宮	
27	滝脇磨崖仏	鎌倉 正中2 (1325)	〃 多羅尾	
28	川守石仏	室町 永禄6 (1563)	竜王町川守	
29	石造阿弥陀如来立像	鎌倉	五個荘町小幡	町指定
30	磨崖地藏菩薩立像	南北朝	〃 伊野部	〃 小磨崖
31	善勝寺石仏	南北朝 建武3 (1336)	愛東町青山	線彫
32	金剛輪寺石仏	鎌倉	秦荘町松尾寺	
33	天吉山覚道上人石窟	鎌倉 正応2 (1289)	浅井町野瀬	上人像
34	己高石仏	鎌倉 永仁2 (1294)	木之本町古橋	
35	黒山石仏	鎌倉 嘉元2 (1304)	西浅井町黒山	